

令和 4 年 6 月 月例会 報告 (6 月 17 日)

今月は、足立区地域のちから推進部生涯学習支援課 西出豊 課長様、足立生涯学習センター 伊藤幸典 副所長様のお二人に講演をお願いいたしました。

○ 足立区の生涯学習に関する令和 4 年度施策…足立区生涯学習支援課長 西出 豊 氏



西出 課長

地域のちから推進部では区制 100 周年を見据えた共生社会を構築していくために 6 項目の取り組みを展開中で、令和 4 年度の重点目標は①小学 5 年生全員に劇団四季ミュージカル観賞などの芸術鑑賞事業の実施。②障がい者スポーツの普及、拡充、補助などのパラスポーツの推進。③学校、地域、大学など多様な連携による読書活動推進事業。④文化、読書、スポーツ 3 分野連携事業の見直しと推進です。生涯学習は人生 100 年時代になった現在、いかに心豊かに生活していくかが子どもから大人まで大切なテーマになっています。子ども時代の遊びや教育、体験、環境、人とのふれあいなどから無意識の中に自我が作られ、性格や

その後の生活に作用していくと言われます。その点からも生涯学習支援課が文化・読書・スポーツ分野などで若い世代に働きかけ、取り組んでいるのは行政として当然かと思われま

す。私ども「楽学の会」が行っている区民への生涯学習支援は概ねシニア向けであり、活動者も高齢者が中心です。元気で動ける高齢者の活躍の場を行政の生涯学習施策の中でもっと生かせないものか、中高年の生涯学習にも区は積極的に取り組んでほしいなど会員よりの要望・意見が出ました。

○ 足立区生涯学習支援第二係長 徳山 茂正 氏、吉澤 和史 氏よりご挨拶を頂きました。



徳山 係長



吉澤 様

徳山係長は足立区生まれ足立区育ちで足立区の職員になられた生粋の足立っ子、子どもの頃の足立区はこんな風だったと今は想像できない原風景を語られました。偉人の墓巡りや卓球のサークルで楽しみ、まさにご自身が文化とスポーツの生活を実践されており、人と人のつながりが大切だと強調されました。

吉澤氏は具体的な業務を話されました。市場調査をしたところ、若年層は地域学習センターを知らない人が多く、生涯学習センターが続いていくためには若者世代が大切であり、今後 Web の他、学校や企業へ出向き若者へアプローチをしていきたいと語られました。

○ 足立区生涯学習センター 令和4年度重点事業…副所長 伊藤 幸典 氏



伊藤副所長

今春、ギャラクシティから異動になり 3 か月目で業務に慣れる最中と自己紹介の後、パワーポイントを使って説明がありました。今年度の取り組みは①2030 あだち未来スケッチ地域活動交流会—まちづくりへの動機づけ、参加②学びピア 21 施設間連携CI事業—夏休み SDGs イベント③基礎調査結果を踏まえた事業—出前講座、イベントなどのアウトリーチ事業④大学と地域学習センターをつなぐ事業—身近な学習センターで行うあだちどこでも大学講座の 4 点です。人生 100 年時代の到来を迎え、学びによる豊かな人生設計を「半学半教」の精神でと言われた言葉が耳に残りました。

コロナ禍以降、会員の体調悪化やコロナフレイルの方が増え、活動する方が減少しています。今回の講演会も少ない人数の中ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

(ボランティア活動推進部)

中世古文書講座 ～ 朝廷文書と天皇の宸翰～

5月15日・22日・29日の日曜日に開催されました。講師は高梨真行氏(宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官・足立区在住)応募者は24名、第1回21名、第2回20名、第3回21名で延べ62名でした。

今回の古文書講座は、廷臣である貴族たちの文書:三蹟から小野道風、藤原行成の文書と天皇直筆の文書:宸翰を読み、その時代の実像を読み解きます。

第1回…平安朝の政治と天皇・上皇の文書 ～勅・院庁下文

- ・平安朝の政治は律令体制で建前は「天皇」を頂点とするが、文書行政であり、実際の政治は大臣・納言が集団で主導した。
- ・天皇・上皇の文書には、公式(くしき)様文書と下文(くだしぶみ)様文書があり、それぞれの文書について説明された。公式様文書は天皇の意向を文書化したもので「詔」と「勅」があり、大和言葉でどちらも「みことのり」と呼ぶ。下文様文書としては、弁官下文と院庁下文がある。
- ・古文書として小野道風筆の「円珍関係文書」の勅書と「八条院庁下文」が紹介された。

第2回…中世の禁裏と天皇・上皇の文書 ～綸旨・院宣

- ・鎌倉時代以降の禁裏・院御所とは東国政権の影響下にない場所も残り、朝廷の幕府の併存状態というのが現実的なあり方であった。
- ・書札様文書は手紙形式の文書のこと。私信であり、月日のみで年を記載しないため公文書の機能はなく、公文書の補完目的で出されていた。
- ・綸旨(りんじ)は天皇の言葉、綸言(りんげん)を記したもの
- ・院宣(いんせん)は院(上皇・法皇)意向を、院近臣が承って発給する文書
- ・古文書として伏見天皇綸旨と後柏原天皇綸旨(土佐家文書のうち)が紹介された。

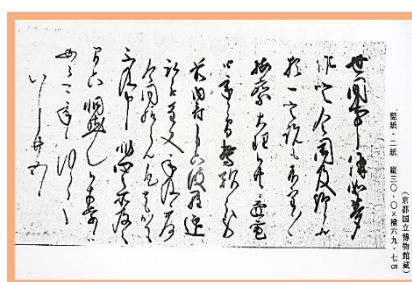
第3回…公家文書の中の天皇宸翰

- ・宸翰(しんかん)とは天皇自身の筆跡を指すことは、日本書道史上で数多くの宸翰のうち、伏見天皇や後醍醐天皇など鎌倉時代後期から南北朝時代の宸翰以降を特に「宸翰様」と称している。
- ・宸翰の種類は、天皇自筆の書状、同写経、仏典、聖教、同和歌懐紙、和歌色紙、和歌短冊、同詩懐紙、詩色紙、詩短冊、同一大字、一行書、二行書
- ・原則署名しない、料紙は高級なものを使用、引合紙、檀紙(厚めの楮紙)で色は白色のもの
- ・古文書として花園天皇宸翰書状と花園天皇宸翰書状(国宝 三朝宸翰のうち)が紹介された。

《受講者のご意見》

- ・いつも大変興味深く聴講させて頂いています。時代背景の説明は面白いです。今後も多くの古文書を分かり易く講義して頂けると嬉しいです。
- ・学術的内容なのでなかなか受講機会が少ないので、ありがたい講座です。
- ・時代背景とか様々な知識が必要な講座なので、ついていくのが大変でした。予習が大切だと思いました。
- ・古文書は初めてでしたが翻刻の説明がありわかりやすかった。

<篠原英也>



令和4年度 大学塾 第1ステージ開催報告

戦国時代の足立 武蔵千葉氏と中曽根城・瑞応寺

6月2日・9日・16日（木）に開催された。応募者57名でしたが会場の都合で抽選となり33名に受講券送付した。第1回31名、第2回31名、第3回30名で延べ92名でした。

戦国時代の足立区周辺は上杉氏・太田氏系の宮城氏と舎人氏、北条氏系の武蔵千葉氏の三氏が存在しました。武蔵千葉氏は足立区本木の中曽根城を本拠としました。中曽根城の発掘調査報告と千葉氏の菩提寺・瑞応寺と中曽根城址の現地学習で戦国時代の足立を学びました。



第1回 戦国時代の足立と武蔵千葉氏

講師：佐藤貴浩氏（足立区地域文化課学芸員）

鎌倉時代の足立郡の歴史をみると鎌倉初期は足立遠元が治めていましたが足立氏が滅んだ後は1456年千葉氏が下総国から武蔵国へ逃亡し武蔵千葉氏が誕生した。武蔵千葉氏の居城が中曽根城だった。

平成6年に中曽根城の堀跡が発見された。東京低地に存在した城として貴重な事例である。戦国時代は岩付太田氏の家臣である宮城氏と舎人氏と北条氏に従属していた武蔵千葉氏が存在した。足立区域は北条・上杉・里

見の大勢力が衝突する境目だった。武蔵千葉氏は北条氏から養子迎えたがその後は北条氏が秀吉に負け滅びると武蔵千葉氏も没落、中曽根城も廃城となった。



第2回 足立区唯一の城址 中曽根城発掘調査報告

講師：柘沼由可子氏（足立区地域文化課学芸員）

武蔵千葉氏の城址と伝えられる中曽根城の存在が『新編武蔵風土記稿』（1830年成立）に記載されており、「千葉某ノ城蹟ト云所アリ、六丁四方（650m四方）、外堀ノ堀、及ビ土居ノ蹟ノミ残レド…」とあり本木村にあると思われていたが、平成6年12月に本木2丁目の発掘調査

で堀跡を発見し、中曽根城の姿が明らかになった。中曽根城の範囲は本木2

丁目の中曽根神社境内付近（本丸と推定）、白元足立ビル周辺である。発掘により中曽根城の郭を巡る濠跡がでた。濠跡は長さ19m、幅7m、深さ1.2m、出土した遺物はカワラケ（古墳時代の土器の系統）、板碑（中世に石材を板状に加工した卒塔婆）、獣骨など。また地底探査レーダーで中曽根城の復元が進んでおり、地積図とあわせて低地を見下ろす中曽根城の威容が想定される。



第3回 現地学習：瑞応寺（夕顔観音）・吉祥院・中曽根神社（城址）

講師：中島剣山氏（瑞応寺住職）

武蔵千葉氏関連の寺社、中曽根城址の現地学習を実施した。「瑞応寺」（武蔵千葉氏の菩提寺）に集合し住職より瑞応寺の歴史を解説頂いた。1498年開創、観音堂に武蔵千葉氏ゆかりの「月星紋」がつけられ「夕顔観音」呼ばれる聖観世音菩薩像がある。次は「吉祥院」で本木村の開発とゆかりが深く江戸時代の江戸4寺の一つで中本寺で立派な寺院である。次は「冬木屋敷、冬木弁財天、田中稻荷神社」で江戸の材木商冬木屋の別邸である。次は「宝寿

院」で武蔵千葉氏の祈願で本尊は不動明王で閻魔大王含めた十王像があり死者は十王の裁きを受け来世の場所を定められると云われている最後は「中曽根神社」で中曽根城址で発掘により堀跡がでて武蔵千葉氏の居城であることが明確となった。現在は中曽根神社がある。約3時間の散策でしたが多くの寺社を見て戦国時代の足立を思い充実した時間でした。

受講者のご意見：戦国時代の足立に興味があったのでとても勉強になりました。足立に住んでいながら歴史について無知でした。中世における足立のポジションがわかり、ありがとうございました。（福田哲郎）



令和4年度 大学塾 第1ステージ開催報告

生誕130年 芥川龍之介の作家人生と家庭生活

講師:種井 丈氏・木口 直子氏 田畑文士村記念館研究員

6月6・20・27日の3回にわたり足立区生涯学習センター研修室4にて開催された。応募者は27名、受講者は27名、参加者は第1回23名・第2回24名・第3回22名・合計69名であった。講師は田端文士村記念館の種井丈氏(第1・2回)と木口直子氏(第3回)。



第1回は「芥川龍之介の生涯と作品」として、明治25年(1892)の芥川の誕生から・学生時代・新進作家から人気作家へ・体調不良・トラブルと自殺願望・文学論争・昭和2年(1927)の自殺まで、35年の短くも濃厚な人生が紹介された。大正4~8年の充実した作家人生と大正9年~昭和2年までの体調を崩した7年間の苦悩が印象的であった。



第2回は「芥川龍之介の交友関係」として夏目漱石・菊池寛・室生犀星・堀辰雄など小説家を中心とした文化人との交友関係「夏目漱石の木曜会」が紹介された。特に漱石との師弟関係は大正4年からのわずか1年であるが、漱石は芥川を高く評価し、芥川は漱石を尊敬していた。

第3回は「芥川龍之介の生活と家族~芥川龍之介旧居跡地の出土品の解説~」として、芥川の生活・趣味・嗜好が紹介され、更に田端の芥川の旧居の発掘調査報告が行われた。田端の家は大正3年(1914)から住み、家族は芥川の亡き後17年居住したが、太平洋戦争で藤沢に疎開後、昭和19年(1944)6月東京大空襲で焼失した。防空壕から数々の日用品が発見され、芥川家を使用したものとは限らないが、同時代の人々の暮らしや文化の一端としてみる事ができる。北区は旧居の一部を取得し、(仮称)「芥川龍之介記念館」の開設を準備中である。



講師2人に対するご意見。

種井講師「よかった。大変わかりやすい講義だった。漱石の話の中で、作家の中で三島由紀夫の脳が一番重かったとか、菊池寛の中で松本清張が芥川の写真を買ってファンだったというのが意外で、初耳で面白かった。貴重なスライド写真も見られて良かった。」

木口講師「私のこれ迄受講した講義でベストです。受講できて本当に良かったです。また木口先生の「田端文化村」やあるいは別のテーマの講演に期待します。」

(糸井史郎)

令和4年6月 運営委員会 報告・連絡

代表挨拶:報告および提案

- (1) 5月23日の令和4年度通常総会へご出席いただきありがとうございました。
令和3年度事業報告・活動報告、令和4年度事業計画・予算が承認可決され理事・監事が選任されました。メール受付が2年目となり、令和4年度の講座では46%の方がメールでの申込をいただくようになりました。ワークルームにて受付、受講券発行ができるようインターネット環境を整えます。会員にメール申込を理解いただくためメール申込テストをお願いします。[ご自身のPC又はスマホ info@gakugaku.main.jp](mailto:info@gakugaku.main.jp)にアクセスし講座チラシの要領に従い講座申込をお願いします。
講座名:江戸のヒロイン(申込テスト)
- (2) 5月26日、江川事務局長と足立区生涯学習支援課へ令和3年度「あだち区民大学塾」講座実施報告書を提出し説明しました。計画18講座に対し、コロナ感染症の影響で9講座しか開催できず、その9講座の内容について説明しました。
- (3) あだち区民大学塾について
6月は大奥から見た幕末の2回目と戦国時代の足立と芥川龍之介の講座が開催されます。特に、戦国時代の足立には多くの方から申込があり、抽選となりました。
- (4) 6月の月例会
6月17日の月例会は足立区生涯学習支援課と生涯学習センターから令和4年度の重点施策をお伺いする予定です。是非とも多くの会員に参加いただくようお願いいたします。後日、改めてメールにて参加をお願い致します。

議事

- (1) 月例会開催について
・6/17(金) 「令和4年度生涯学習に関する施策」 足立区生涯学習支援課長:西出 豊 氏
「生涯学習センター事業について」 生涯学習センター副所長:伊藤幸典氏
*皆様の出席、よろしくをお願いします
- (2) あだち区民大学塾(検討会議・企画会議・地域協働講座)
「篤姫と和宮」 応募者 63名 穂高健一講師 5/7,6/11,7/9
1回 55名 2回 44名
「古文書講座」 応募者 38名 高梨眞行講師 5/15,22,29
1回 21名 2回 20名 3回 21名 終了
「戦国時代の足立」 応募者 33名 佐藤・柳沼・中島講師 6/2,9,16
「芥川龍之介」 応募者 26名 種井・木口講師 6/6,20,27

新入会員 紹介

…人生の後半を私なりに充実…

始めまして、板部裕子と申します。この度、微力ながらお仲間に入れて頂くことになりました。大学塾の広範囲にわたる専門的な講座は魅力的で学生時代に戻った様にくわくします。スタッフの方々のご尽力やチームワークの良さの近くで、人生の後半を私なりに充実した時にしたいと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。(板部裕子)



令和3年度 あだち区民大学塾「講座実施報告書」完成



令和3年度あだち区民大学塾の「講座実施報告書」が完成いたしました。会員の皆様には、5月の運営委員会及び総会、楽学ニュース発送時に同封しております。5月26日足立区役所生涯学習支援課に持参し、西出課長に報告書の内容等について説明を致しました。講座実施報告書の作成に当たり、担当者はもちろん多くの会員に参加していただき立派な報告書が出来上がりました。ありがとうございます。なお、当会に関係する方々にも、楽学ニュースと一緒に送りました。

(事務局 江川武男)



◎ 講座名:森林太郎の見たドイツ 鷗外の異文化体験(3日制)

日 時:8/20(土)・27(土)、9/3(土)
午後2時~4時
対 象:16歳以上の方
会 場:5階 研修室1
受講料:2400円(一律、講座当日にお支払い)
定 員:40名
(事前申込先着順)オンライン10名
講 師:美留町義雄氏(大東文化大学文学部教授)
内 容:森鷗外といえば、「文豪」として知られていますが、近づきたい印象が先行し、あまり読まれていないのが現状です。
この講座では、文豪「以前」の鷗外、つまり青年森林太郎に注目してみましょう。特に、彼のドイツ留学時代を振り返り、食文化や日常習慣、そして人間関係など、彼の多彩な異文化体験を、日記や文学作品から探っていきたいと思います。

◎ 講座名:シニアによるシニアのための タブレット教室(4日制)

日 時:8/2(火)・10(水)・17(水)・24(水)
午後1時~4時
対 象:おおむね60歳以上の方
会 場:5階 研修室4
受講料:8400円(一律、講座初日にお支払い)
定 員:10名(事前申込先着順)
講 師:佐藤一氏
(NPO 法人アクティブ SITA 代表)
内 容:タブレットの基礎知識や基本操作を学びましょう。実際にタブレットを使い、写真や音楽動画を楽しみながら学ぶ講座です。

お申込みは、電話(03-5813-3730)又は直接窓口
インターネット [近所 de まなびナビ] で検索
イベント・講座情報→講座予約システム
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座の
中止、延期もございます。予めご了承下さい。

令和4年7月「月例会」のご案内

7月13日(水)午後3時~5時 研修室4
テーマ:「受講申込者のメール受付方法について」
終了後、懇親と情報交換会を開催

令和4年8月「月例会」は休会

8月は、猛暑期の為 休会と致します。

* 皆様の積極的な参加をお待ちしています。
(ボランティア活動推進部)

- ◎ 運営委員会
7月4日(月) 午後2時半~4時 研修室4
- ◎ 月例会
7月13日(水) 午後3時~5時 研修室4
- ◎ 学習支援部
7月13日(水) 午後1時~2時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部
7月6日(水) 午後2時~4時 ワークルーム
- ◎ 事務局
7月5日(火) 午後2時~4時 ニュース発送
7月12日(火) 午後2時~4時 ワークルーム
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
7月13日(水) 午後2時~3時 研修室4
- ◎ 大学塾講座企画会議
7月4日(水) 午後1時半~2時半 研修室4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
7月11日(月)

★お問い合わせ&ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 江川武男 電話:090-3105-8140
E-Mail : takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp
E-Mail : kambe.akira2@gmail.com

編集後記

“川から海へ ごみは何処へ”

日本の河川より海へ流れ出たごみは、日本の沿岸各地に漂着するほか、海流や風などの影響で太平洋を帯状に漂いアメリカの西海岸やカナダ、アラスカなどに漂着。またその一部は、フィリピンなど東南アジアまで漂着して、太平洋の広範囲に影響を及ぼしていることが明らかになっています。

日本も含め世界各国より海洋に流れ出たペットボトルや食品トレー、お菓子の包装袋やレジ袋などのプラスチックごみの発生量(2100年の推計)は、1年間でおよそ1,200万トン超え、海洋への排出量順では、1位 中国(353万トン)・2位 インドネシア(129万トン)・3位 フィリピン(75万トン)・4位が ベトナム(73万トン)・5位 スリランカ(64万トン)・20位 アメリカ(11万トン)・30位 日本(6万トン)となっています。現状では排出源となっている国のほとんどが東・東南アジアの国々なのです。なぜ生産量や消費量が多いと思われる先進国が上位に入っていないのか? 東南アジアなどでは「再資源化」が進んでいない事も原因として挙げられます。

次号では、ごみ問題“廃プラスチックはどこへ”を掲載します

(金子 記)